

香葉



1999

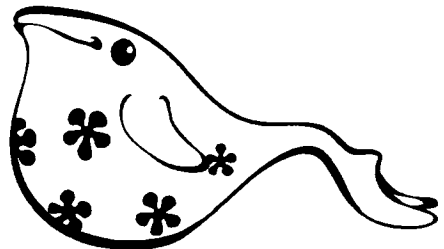
NO. 28

目 次

演奏会のご案内	1
学長あいさつ	吉 田 博 2
会長あいさつ	古 城 房 子 3
女専のページ	渥 美 裕 子 4
	土 岐 房 子 5
サントリー学芸賞を受賞して	岩 佐 壮 四 郎 6
県央のつどいのご案内	7
覚え書 (No. 26)	上 市 二 郎 8
コーヨースポットライト	佐 野 妙 子 13
関東学院同窓会	14
シェイクスピア記念講演のご案内	15
実体験型取材 (八景島シーパラダイス篇)	16
本田桂子先生講演会	雨 宮 慶 子 (要 約) 20
ハンソン山から	22
母校ニュース	25
社会人一年生	26
香 葉 室	28
クラス会報告	32
平成10年度決算・平成11年度予算	35
賛 助 金	36

表 紙 関 頼 武

カット SMILY カツラギ



増井光子先生講演会

長年の動物とのかかわりを持ち、東洋一の自然型動物園（よこはま動物園ズーラシア）の園長に就任した増井光子先生のお話を、楽しくお聞きしたいと思います。



テーマ：「動物を育てる」

・日時：平成11年11月21日（日）

* 13:00～ 総会

* 13:30～ 講演会

・場所：図書館棟 5 F 視聴覚教室

・プロフィール

1959年 麻布獣医科大学医学部獣医学科卒

〃 上野動物園動物病院勤務

1970年 東京都多摩動物公園動物病院係長

1979年 上野動物園動物病院係長

パンダの人工繁殖に取り組む

1987年 東京都多摩動物公園調整係長（課長補佐）

1988年 東京都井の頭自然文化園長

1990年 東京都多摩動物公園長

1992年 上野動物園長

1995年 第4回世界水族館会議事務局長

1996年 麻布大学教授・獣医学部動物応用科学科

動物・人間関係学研究室

1999年 よこはま動物園ズーラシア園長

獣医学博士・学芸員

・著書

都会の中の動物たち（主婦の友社）

動物の親はどう育てるか（どうぶつ社）

他 多数

・社会活動

JRA賞馬事文化賞選考委員会委員 日本自然保護協会評議員

日本学術会議・獣医学研究連絡委員会委員 ウガンダ国立公園名誉ワーデン

NHK放送用語委員会専門委員 世界自然保護基金日本委員会評議員

今までの講演者・演奏者名です。（敬称略）

1985 永井 路子

1986 鳥飼玖美子

1987 田中喜美子

1988 関東学院ハンドベルクワイヤ

1989 宮崎 安子

1990 吉武 輝子

1991 吉屋 敬

1992 円 より子

1993 呉 善花

1994 大庭みな子

1995 佐伯 輝子

1996 大塚野百合

1997 関東学院ハンドベルクワイヤ

1998 本田 桂子

★香葉会の部屋★ご案内

卒業生と在校生・教職員の交流の場として、3号館106号教室にて『香葉会の部屋』を開室し、コーヒーとクッキーのサービスを致しております。お友達・ご家族お問い合わせの上お立ち寄り下さい。

* 11月20日・21日 開室

* 香葉会会員の手作り小物等（クリスマスオーナメント等）の販売も致しております。

学長挨拶

学長 吉田 博



一九九七年二月二十三日付のイギリスの新聞『オブザーバー』は、科学専門誌『ネイチャー』に、クローン羊の誕生を報告する論文が掲載されることを報道しました。この報道により、世界は興奮の渦に巻き込まれ、翌二十四日付の世界中の朝刊の第一面は「ドリー」の写真で埋めつくされることになりました。「ドリー」とは、この子羊のニックネームのことです。

「ドリー」は、哺乳類での初めてのクローン動物であり、この研究成果は生命科学の分野でも画期的な出来事でしたが、様々な倫理問題をも提起することになりました。国々の対応は様々であり、イギリスは、「生殖技術とヒトの胚の扱いは一元的に管理すべきである」といい、ドイツは、「クローン人間を明確に禁止せよ」と主張しました。フランスは、「人体、人格、人権は三位一体でなければならぬ」といい、アメリカは、「国レベルでの合意を得られるよう五年間の実験モラトリアムをもうけて論議せよ」と主張しました。日本は、「基本方針が

確定するまで、この種の研究に対する政府資金は配分しない」という極めて主体性に乏しいものでした。

この数日間の世界的な動きは、過度の研究規制や感情的な反科学を避けた科学界、これまでの実績をもとに法的問題を微調整ですませたい行政当局、世論を背景に包括的な法の網をかけたい政治家という、三すくみの様相を呈しておりました。波紋の広がるなかで、三月一日発行のイギリスの『エコノミスト誌』は、「今後、クローン人間の作成という問題も出てくるであろうが、それは年齢の異なる一卵性双生児が誕生する以上でも以下でもなく、性急な研究規制は全くの愚策であり、この技術の悪用をさけるためにも理性的で徹底した討議を持つことが望ましい」という論評をし、その論評は強く私の印象に残りました。

「ドリー」の誕生から二年後の一九九九年五月二十七日付の朝刊に、「ドリーの遺伝子年齢は親並み」という記事が掲載されました。遺伝子には「テロメア」と呼ばれる部分があり、そこは細胞分裂のたびに短くなり、短さが限界に達すると、細胞（生命）は死にいたることにあります。クローン羊「ドリー」と親羊のテロメアの長さは同じ長さであり、生命科学の粋を集めたクローン技術をもってしても生命の基盤となる遺伝子までは若返らせる事はできなかったようです。

体細胞クローン羊「ドリー」の出来事は、「今、私た

ちに与えられている生命は、遙かな過去から未来に連なる生命という鎖の一環である」と考えてきた私の生命観を再認識できた出来事であり、また、生命倫理に関する共通価値を国際的にも確かなものにしていかなければならないことを痛烈に指摘した出来事でもありました。

今、私たちはこの地球より、「生命倫理」と「環境倫理」について再定義することを求められております。二十一世紀を生きる学生諸君はこれらを明確にしておく必要があります。授業等を通して論議を深めていきたいと考えております。

香葉会の働き

会長 古城 房子



今年は九五六名の会員を新たに迎えました。その中から、各科一名づつ、五人の方が年度委員として香葉会の運営に加わって下さることとなり、五月の第一回委員会では、活発な意見を出して下さって、力強い戦力として大いに期待しているところです。

会の主な働きについてご報告申し上げます。

一、留学生への奨学金支給による支援

一、「国境なき医師団」への寄付による国際的支援活動

一、会誌「香葉」の発行、今年是小濱朝子幹事の編集長と共に編集委員一新……乞うご期待……

一、講演会の開催、ズーラシア園長、増井光子氏をおよびました。

一、短大祭への参加行事……等々。

一九九四年に名簿を作成してから五年目の今年は、新しい名簿発行の予定でしたが、情報社会の中で、不都合な事故も多発している状況で、多くの学校が名簿作成、発行を差し控えており、香葉会としても、発行を中止し、コンピューター管理に切り替えることに決定、その予算も立てました。今まで通り、ご不自由をかけないように会として皆様のご要望にこたえて参りますので、住所、氏名の変更は必ず、ご連絡下さいますようお願いいたします。

不景気による社会の情勢は厳しく、就職難もまだまだ続く気配、短大も少子化の影響を受け、将来が案じられるこの頃です。幸い、今年の入学者数は昨年とあまり変わりがないようですが、いつまで短大としての伝統を守って行けるのか憂慮せざるを得ません。会としては、あくまで学校当局の方針に協力して、出来得る限りの応援をしていく所存です。今年も会員の皆様の「出会いの場」「交流の場」として、香葉会をご利用下さることを願って、委員一同、頑張りたいと思っております。(英1)

女専のページ

私の山登り

渥美 裕子

子供の頃からアウトドア派だった私は、昭和三十年代にはいると山登りを始めた。主として夏休みを利用しての一年一、二回の山登りだが、登山暦四十数年ともなると登った山も相当な数になる。

頂上からの展望が楽しめること、高山植物に出会えることが私の山選びのポイントだ。前者は天候に左右されるので、せっかく登っても十メートル先も見えないという残念な結果になることもしばしばだ。最近気に入って二年続けて登った八ヶ岳最南端の編笠山は、空気の澄んだ十一月だったこともあって期待を裏切らぬ三六〇度の大展望を

満喫した。後者はそれぞれの山で美しい可憐な花に出会えるが、特に記憶に残っているのは北海道大雪山系の黒岳飯豊連峰の梅花皮小屋附近、北アルプスの奥座敷雲ノ平、黒部五郎岳のカー、朝日岳から雪倉岳へかけての小桜が原、尾瀬の至仏山、頸城山塊火打山の天狗ノ庭附近等、数え上げると限りがない。



時には珍しい出会いもある。昭和三十

二年に南蔵王經由で蔵王に登った折り、不意山中腹に墜落した戦闘機の残骸を発見し、突然戦争の悪夢が甦った。中央アルプ

ス三沢岳頂上附近では野生の猿の一群に出会った。そこには私達四人のみ、ちょっと気味が悪かったが猿の方で立ち去ってくれた。北アルプス穂高の滝谷岩壁の写真を撮るために、槍平小屋から奥丸山へ登り始めて、登山道わき

に今したばかりの熊の糞を発見した時には肝を冷やした。秋田駒ヶ岳からの下山途中では突然かもしかに出くわした。慌ててザックからカメラを出している間じっとこちらを観察していたが、シャッターを切るのを待っていたかのように走り去った。大雪山系黒岳のエゾリス、大台ヶ原の鹿、山では思いがけない出会いの楽しみもあるが、私にとっての山登りの醍醐味は、一步山に入ると下界の事は一切忘れ、自然の中に身をまかせる気持ちになれることだ。しかし七十歳を迎える今年私の山登りにもそろそろ区切りをつけようかと思っている。

(女専英一)



眩しい日々

土岐 房子

私は旧制高女の先輩、女専家政科一期生のTさんに契められて、同科二期生として入学し、極めて優秀な一期生に支えられながら、生き生きとした女專の日々に恵まれた。

戦災の跡まだ生々しい戦後二年目、バラックが建ち並び始めた頃である。視界を遮るものなく、澄んだ空に遠望する富士に、毎日迎えられ送られた三春台校舎での私達の三年間は、新設間もない女專の黎明期でもあった。

戦後復興期の混乱の最中に繰り広げられた女專の日々は、戦時の管理体制下に慣らされてきた私にとって、まるで別世界のように新鮮な活気に溢れ、自由と和と温かさに包まれていた。キリスト教については門外漢だった私が“人となれ、奉仕せよ”の校訓に強く惹きつけられ、以来私の人格形成に向

けて、大きく影響し続けていったのである。

ゼミナールの場で師弟が膝を交えて議論し合い、談笑もした母校なればこそ実現した、私とIさんのユニークな校内アルバイトの思い出を一つ、ここに紹介したいと思う。

三年生の夏の出来事である。同期生のIさんと組んで、夏期講習会期間中の昼休みにミニ食堂を開く事を思いついた。今だったら衛生面で待ったがかりそうだが、食糧事情が好転し始めた戦後のドサクサ時代である。綿密な計画をたてて学校の許可を頂き、教室と割烹室も借りて二人のミニ食堂は開店された。

アイスクャンデーと久寿餅を毎日仕入れ、呼び物は手作りの冷麦である。茹で上げた麺を正門脇の土堤に湧く地下水で冷やし、Iさんの庭の茗荷と青紫蘇の薬味と、彼女手作りの麵つゆも大好評だ。講義から解放された学生と先生方との交流の場ともなつて、食堂の滑り出しは上々だった。学生達に積

極的に呼びかけて下さった時田先生、そして無報酬で会計係を受け持たれた家政科の角田先生もまた大変な力の入れようで、溶けかけても値下げなしのアイスだったが、苦情もなく物珍しさも手伝ってか何もかもとぶように売ってしまうのだ。私達は感謝で言葉もなかった。おかげで予想以上の収益をあげて、二人の学費を助け、学校への謝礼も果たして、二週間の校内ミニ食堂はめでたく幕を閉じた。

若さと善意と、先生方の応援も頂いた今どき考えられないような二人の校内アルバイトだった。あれから半世紀が経った。眩しいまでの思い出に恵まれた私の幸せを今、感謝一杯に噛みしめている。

(女専家2)



サントリー学芸賞を受賞して

国文科 岩 佐 壮 四郎



昨年十一月、第二十回サントリー学芸賞を受賞することになりました。受賞の対象になったのは昨年五月、大修館書店から刊行した『抱月のベル・エポック』という本です。抱月というのは、明治四十年代に評論家として日本自然主義の文学運動を推進、大正期には芸術座を結成して、新劇運動を展開した文学者島村抱月のことです。もっとも、一般には、「カチューシャの唄」で一世を風靡した、近代日本で最初のスター女優でもあり、最初の流行歌手といってもいい松井須磨子との激しい恋のほうがよく知られているかもしれません。

その抱月は一九〇二年から一九〇五年までの三年間、イギリス、ドイツを中心に留学しました。当時のヨーロッパは経済が高度成長をとげ、未曾有の繁栄と平和のさなかにあった時期でした。「ベル・エポック」というのはこの時期、一九〇〇年を中心に前後十五年ずつの三十年

間、最近ではヨーロッパ文化がもっとも美しい実りを示した一つの時代を指す言葉として文化史のうえでもよく使われるようになっていきます。この本は、そうした時期にヨーロッパに留学した抱月の足跡を跡付けたものです。

抱月との付き合いは修士論文に彼の初期の、すなわち自然主義文学運動に関わる以前の文学理論を取り上げて以来です。もう随分長くなりますが、それまで殆ど空白とされてきた留学時代について考えてみようと思いついたのは十年ほど前にイギリスに短期の海外研修に行っていたからです。その数年前に『世紀末の自然主義—明治三十年代文学考—』という本を出し（一九八六、有精堂）、これは永井荷風や谷崎潤一郎についての作品論が中心でしたが、その巻頭に「抱月の世紀末」という論文を掲げた頃から、一度は抱月もその空気を吸ったヨーロッパを肌で感じたいとは考えていました。しかし生まれつき出無精で、口実をつけては逃げていたのですが、イギリスに行く気になったのは、ちょうどこの頃山下登喜子先生と千葉義孝先生が相次いで亡くなられ、自分なりに心境の変化を自覚したのと、岡松先生の強い勧めによりです。それなりに成果が出て、論文として発表し始めたのは一九九〇年頃からで、最初は「比較文学年誌」（早大比較文学研究室刊）や、小玉晃一先生のお薦めで日本比較文学会で発表したりしたのですが、長いものに纏めることが出来たのは川崎宏先生が編集なさっていた「明治村通

信」(博物館明治村発行)に、同誌が三〇〇号で終刊するまで二七回にわたって連載してからです。このほか、国文科の先生方はもとより、イギリス・ドイツに調査に行ったときの下田・小玉敏子の両学長はじめ短大の皆様の方々の暖かいご支援がなかったら、怠惰な私がこの本を纏めることはできなかったでしょう。

サントリー学芸賞の受賞は、全く予想もしないことでしたが、最初に思い浮かんだのは「運鈍根」という言葉でした。五十歳をこえて、鈍はともあれ、運にもあまり縁がなく、根気もだんだん失いつつあることを自分でも痛感し始めた時期であっただけに、なにもものにも代えがたい励ましになりました。東京会館での受賞式では、サントリーのモルトをつくる樽のコルクにプラチナを詰め込み、その中に自分の名前をシッカリ刻んだ楯と、金一封を頂きましたが、楯は早速床の間に置き、しばらく眺めました。百万円の賞金も、妻と相談して大切に使いました。受賞式の一週間前に記者発表がありました。この日、横浜がセリーグでの優勝を決めたことも忘れられない思い出です。しかし、なんといってもお礼をいいたいの、卒業生の皆さん達です。みなさんほんとにありがとうございます。

関東学院県央のつどい

開催のお知らせ

毎年秋に行われてきました「県央のつどい」も今年で十九回目を迎えました。燦葉会と共に、県の中央の会員の皆様を交えて、楽しい一時を過ごしませんか？
同封の葉書(講演会・県央のつどい)に出席を記入の上早めにお申込みください。

記

日時 平成11年10月23日(土)午後6時

場所 「上海菜館」小田急線本厚木駅南口

ハピネス6階

会費 五千円(女性)

☎046-1-2281-5956

追伸 厚木・大和・海老原・等々の皆様是非お友達

(他地域の方でも可)をお誘い合わせの上、お申込みください。

覚 え 書 (二十六)

— 女専・短大小史 —

上市 二郎

短大月報および関東学院広報が毎月郵送されてきますので、女子短期大学や学院各校の様子、学年暦及び人事の動きを知ることができます。本年四月の学報に依り、入学式が四月二日(金)に行われ、六日(火)七日(水)にかけて一年次生の宿泊クラスミーティングが各科毎に次の様に実施されているのを知りました。英文科は三浦ヶープシャトー、国文科は箱根芦ノ湖園、家政科は箱根高原ホテル、幼児教育科は油壺観潮荘、経営情報科はリゾートピア箱根でした。全国各地の高等学校から新しい大学生活に踏み込んで戸惑いを感じていた新入生も、この一泊二日のクラスミーティングが終る頃顔色も変わり多くの友もできて、帰りのバスは賑々しい雰囲気包まれていました。それは昔も今も変わらない学園生活のひとつまで懐かしく思い出しました。その他、法人事務局広報課が担当し年に二回程、カラー写真入りの冊子「関東学院学報」を届けてくれます。これは学院全体(野庭校地、三春台校地、釜利谷校地、小田原校地を含め)各校の主なニュースや課外活動結果など解る様になっていました。

平成十一年三月一日発行第十七号では、女子短期大学全景が航空写真に依り表紙を飾っていました。これを手にした折、過去の色々の出来事が走馬灯の様に頭の中を駆け巡り大変懐かしく感じました。

昨年は姉代わりそして母親代わりとして、教会生活を営みながら献身的に奉仕されていた田中順子氏が、寮母としての三十年間無事に任務を終えて、定年退職となりました。(香葉「二十七号十二頁参照」筆者も公私共に大変お世話さまになり深謝しています。今後のご健康とご多幸を心からお祈り致します。

本年は家政科の山口和子先生が学院定年後五年間の任期を終了して短期大学を去ることになりました。家政科長渡辺紀子先生が早速、山口和子教授「定年退職記念誌」と家政科誌「室木」とを届けて下さいました。山口先生には筆者も大変お世話様になりました。思えば貧弱な実験実習室(当時神学部校舎の裏手にプレハブ急造の間に合わせの教室)での授業、何もない時代とは云え良くも辛抱されたものだ、とつくづく感心させられました。また、栄養士の養成課程には欠かせない実習先への打合せなど挨拶廻り、毎年夏休みに行かない、学校の古い冷房装置の無い車を利用、カンカン照り付ける中を走り廻って、行く先々で挨拶を終わって戻ると車の中は蒸し風呂と化し手がつけれなかった。こんな状態が続いても、いつも笑顔で「頑張りましょう、事務長！」と言われた当時

のことが忘れられません。

また、同時期に準専任の様にスキー実習に、体育の指導にご援助下さいました湊井東先生も四十六年間の勤務を終えて、学院を去ることになり、去る四月ご挨拶状を頂きました。

前に述べた短大月報や学院広報を見ても段々と知らない方々が多くなり、改めて年月の流れを感じさせられません。編集委員の皆様、この様にして時代は刻々と移り変わっていますので、「覚え書」(二十五)で述べたように、順次執筆者が交代して続けて行ってもらいたいと思うものです。

さて、前号に於いては昭和三十八年度を迎え、年度初めの色々のことや、教員の移動、新しい学年、各クラスを担当者およびアドバイザーなどに関して記述し、学友会(昼間部)自治会(夜間の第二部)に依る新入生歓迎会が開かれたところ迄でした。

例年実施されている一年次生のリトリートを五月七日(火)から九日(木)に行くことで、幾つかの案が四月初めに提出され討議されました。今年からは専任牧師の下田哲先生が就任されましたので、その指導の下に、このリトリートを二年間の宗教活動の一部として組織的に計画してみてもどうか。そして、今迄の様に外部の講師を依頼するのではなく、学内の先生方と学生との話し合いの場を多く持つ様な型に進めていったらどうか、等など

が討議されてきました。やがてはこれを土台として、その後一年次生、二年次生のリトリートが型通りに実施されていったのでした。

この頃入学式について例年の如く役割分担が発表されました。会場準備は檜垣好子先生、会場の受付は檜垣先生と橋本陽子先生、レセプションおよび接待係には安藤寿々代先生と井口安喜子先生が責任を持ってもらうことになりました。そして、新しい年度の役員(宗教委員、短大論叢委員、図書委員と、その他の委員など)が発表されていました。

五月に入ってからには目白押しに色々のことが行われていました。その一つはその頃の噂となっていました、海を埋めて住宅地を造る、と云うこと。横浜市が計画しています、その方向に話が進められている、とのことでした。これらを耳にしましたが、平潟湾の埋立て工事については学院各学校としても反対の意向が示されています。そこで大学及び短期大学の学生に依る埋





立反対のデモ行進が実施されることになりました。そうして、五月二十一日(火)に大々的に行われました。当時は古い旧海軍の施設を利用していましたので、木造二階建ての長い建物(校舎)でした。護岸された砂利道が海に沿って細長く続いていて、海と学校用地とを区分していました。(今

は舗装されて人道・車道に区分され、金沢八景駅前と学校との循環バス道路となっています)六浦校地の学院全体に取っても学校前の広大な平潟湾が埋め立てられて陸地と化すなど考えられず、反対氣勢が盛り上がるのも当然でありました。カヌー部やヨット部それにボート部の練習場として使用していました入り海が消えてしまう、そんなことは考えられなかったのです。学校も学生も一丸となって反対しました。平潟湾埋立て計画は九月下旬反対しましたにもかかわらず、遂に実施される運びとなつてしまいました。現段階に至った以上埋立て案を飲む以外に方策がない、と断念せざるを得なかったのです。

そこで十月三日(木)横浜市の公聴会が開かれる、と云うのを知りそれ迄に要請書を作って提出することになりました。学生達がカヌーやボートだけでも練習出来るように、内川橋から夕照橋の方に向かって侍従川の川巾を出来るだけ広く取ってもらいたい、と云う内容の要望書を作成して市長宛に提出したのでした。やがて埋立て工事が進み、そして完了し、出来上がりましたが現在の柳町という住宅用地となつてしまいました。現在侍従川が内川橋の次の橋辺りから急に川巾が広くなっているのは、その頃の運動の成果ですから六浦校地の学院を訪れた折は、心して是非共見分して頂きたい。当時の教職員及び学生達の苦労が判るのではないでしょうか。

さて、次に鎌倉の中桐寮が五月から使用することが出来るようになりました、という連絡を受けました。この寮は漫画家の横山隆一氏宅の直ぐ隣に位置し、大学の総務課が或る事情のもとに管理していました。二階建ての個人住宅用建物で庭には緑の立木が多く、当時は大学も短期大学も教職員が気軽く色々の集会に使用していました。家庭的な雰囲気自ずから生まれて、和やかな話し合いの時間が持てたことを懐かしく思い出します。先生方の会合の他に、五月二十三日(木)には教職員の新任者に対して、オリエンテーションが此処で開かれていました。新しい方々に学院の歴史やキリスト教を基盤とする教育方針などが語られる集いで、本学の該当者は英文

科斎藤衛専任講師と語学演習室の三島(旧姓依)愛子研究室助手(英文科三十八年三月卒)の二名でした。集いが終わり夕食を共にしながら和やかな懇談のひとつを過ぎたことを思い出します。従来は同じような集いを葉山寮で行っていました。

五月二十九日(水)の午後三時から生活科学部主催の講演会が開かれていました。講演題目は「欧米人の科学技術工業並びに社会生活、家庭生活を視て考えさせられたこと」となっており、スライドを併用して池谷先生が担当していました。

この頃、大学並びに短期大学の教職員リトリートが学院宗教部主催で計画され、毎年、中伊豆の天城山荘に於いて実施されていました。この年は七月七日(日)から九日(火)まで、両大学の教職員が寝食を共にしての三日間の生活は大変有意義な集まりでした。今でも忘れることの出来ない思い出の一つとなっております。

いよいよ夏の行事を迎える時期となりました。この年も北海道旅行が実施されることになり、付添いの先生方が発表されました。小玉敏子先生と大学の湊井東先生で、事務局からは松本久子氏が参加することになりました。

この折は青森まで往復寝台車を利用することになりましたので、参加学生も大変元気で旅を続けることが出来ました。然し寝台車を利用しましたため、若干の反省事項は感じられましたが無事に終了しました。とのことでし

た。次に、毎年教職員を対象とした基督敎学校教育同盟主催の夏期学校が夏休みに御殿場の東山荘で開かれていました。この年は第十三回宗教教育協議会が最初に催され、テーマは「宗教科目担当者の責任と反省」で、期間は七月三十一日(水)から八月二日(金)迄の三日間でした。本学から下田哲先生が出席しました。続いて第三十三回夏期学校が八月二日(金)から五日(月)迄の四日間開かれ、テーマは「人造りとは何か」で、講師は早稲田大学の酒枝先生と大阪大学の森東吾先生に依る講演を中心に討議を行いました。本学からは柴三九男先生が参加しました。そのあと、五日(月)からは職員の夏期学校が開かれて、高木富美子氏と椿原(旧姓不破)千佳子氏(英文科三十七年三月卒)が参加していました。

なお、七月十五日(月)から二十日(土)にかけては、日本私立短期大学協会主催の学生補導研修会が神戸の六甲山ユースセンターで開催され、本学からは当時の学生主事の安藤寿々代先生が参加していました。以上夏休み中の教職員の諸行事について今回は記述してみました。勿論学生参加の行事、昼・夜の集中授業や英語夏期講習会は例年の通り行われていました。

さて、この頃の記録を見ると七月十九日(金)午後三時から入学案内用パンフレット及びポスター作製の委員会が開かれていました。委員会側兵藤正之助先生と檜木陽子先生が出席、それに学長(相川先生)事務長(筆者)

奥山氏（現事務長大代理の大河原氏）が頭を捻っての会議だったことを思い出します。前にも述べてある如く旧海軍の施設利用の木造校舎で、写真に撮ってみても見栄えのする物は何一つなく、せめて海を活用し浮かぶヨットでも写してとか、また校舎玄関前の蘇鉄と芝を背景に女子職員をモデルにして撮って「校庭でのひととき」を表すなど、等、利用してみたこともありましたが。その海も埋立てられることになるとは、本当に当時の教職員は苦勞し頭を悩ましたものでした。

八月に入って、英文科第二部のリトリートが八月の三日（土）四日（日）に互り関東学院軽井沢山荘に於いて行われていました。参加者は五十名余。大変良い会合をもつことが出来ました。然し中軽井沢着をみて出発を午後一時三十分としたのは失敗でした。と下田先生の反省の一言も記録されていました。でも当時参加した学生に取っては良き思い出となつて残っていることと思います。（軽井沢山荘については前の号八頁を参照して下さい）記録を追つてゆくと、基督教文化学会が毎年開かれていまして、この年は神戸女学院大学が当番校（会場校）で、十月十八日（金）十九日（土）にかけて開催され、本学からは相川学長、エリオット教授、下田講師が出席「オーデンとキリスト教」と題してエリオット先生が研究発表を行っていました。

十月二十八日（月）午前十一時から女子寮の起工式が

行われていました。（女子寮に関しては前号の十頁を参照して下さい）

秋の大学祭が十月三十日（水）前夜祭とし、十一月一日（金）から三日（日）まで開催。三日には後夜祭を行う、というスケジュールで始められました。この年は短大館を使用して短大独自の実行委員に依り運営することとなりまして、主に各科、各部の展示、バザーなどの盛り沢山の計画がされていきました。運営も良く行われ、準備や後片付けの状態も良好であった、と記述されていきました。そして十一月三日（日）は燦葉会短大支部（燦葉会の前身）総会が開かれ、五十数名の卒業生が集まり相川高秋先生の講演に耳を傾けていました。

毎年行われているキリスト教強調週間が、この年は十一月十一日（月）から十五日（金）にかけて実施されました。今回は大学が計画した特別講演に参加しませんでした。短大は授業時間割の関係で神学部講堂を使用して、毎日礼拝を行うことになりました。この週間中の奨励者は次の通りになっていました。月曜日は下田哲講師、火曜日は兵藤正之助教授、水曜日は相川学長、木曜日は柴三九男教授、金曜日は俵愛子姉でした。そして、宗教特別講演は十三日（水）午後三時から四時半まで、四一六番教室（当時の大学四号館合併教室の下の部屋）を使って、出口力牧師に依り行われ、英文科第二部は十五日（金）午後七時から白根新治先生に依り実施されていました。

コーヨースポットライト

鎌倉彫雑感

佐野 妙子



四十の手習いはもとより五十六・六十代からの手習いを始められる方も多いと思いますが、鎌倉彫はその対象としては最も適していると思います。四百年以上の歴史をもち、鎌倉時代の頃より現代迄古いものを残しながら、彫も型も時代の移り変わりと共に確実に変化、進歩しつつあります。殆どの手工芸品がそうであるように、作品が出来上がる迄には楽しい過程もあり、それ以上に難しくつらくなる場面もたくさんあります。鎌倉彫の場合

奥が深く、難しい分だけ、作品が完成した時にはよるこびもひとしお、製作意欲は十分満たされ充実感にひたる事が出来ます。

鎌倉彫というものをあまり知らない人は、彫り上がった自分の作品はそのまま自分で塗り上げるものだと思っている様ですが、鎌倉彫の場合は全く別の独立した作業になっています。彫を習っている人は必ずといっていい程、自分の作品位自分の手で塗って仕上げたいという願いを持っています。イメージ通り仕上げて完成させた喜びを味わいたい、いえ思い通りにはいかなくてもそこそこそれなりに出来上がればよし、それにあの高い高い塗り代というものも節約出来るし、などと簡単に考えてしまいます。

鎌倉の近くに住んでいた事もあって鎌倉彫は私にとって身近な存在でした。お盆や茶托は生活の中の必需品でしたし、良い作品を観るチャンスにも恵まれました。また塗りの手法、種類もいろいろある事を知りました。深く光る

肌のとやと、深いあざぎ色に私はとても惹かれました。どんな塗り方をしたらこんな風に出来るのかしらと、ただ強い憧れと好奇心だけで何も解らないまま塗りの学校に強引に入学してしまっただけですが、それこれ四十の手習いで頑張れば何とかかなるなどと甘い考えで居りました。そして程なく現実の厳しさを感じ知らされたのでした。鎌倉彫はあんなに美しいのに、それが出来上がる迄にはこんなに腕力のいる汚い仕事ばかりなのか、と正直な所その時はただ自然としたものでした。これは女性のする仕事ではない。体中埃にまみれながら進退に思い悩んだ時もありました。手は使われるために神様から授かったもの。黒い爪と節くれだった指を眺めながら、この手は十分に役立っている



塗り道具

さを感じ知らされたのでした。鎌倉彫はあんなに美しいのに、それが出来上がる迄にはこんなに腕力のいる汚い仕事ばかり

る証拠などと、とりあえず自分の気持ちに決着をつけたものです。その上私にとって一番辛かったのは漆かぶれでした。漆かぶれは免疫にはなりませんので、私の場合何度もくり返しかぶれました。私の体質のせいだったのかも知れません。鎌倉彫が彫り人口ばかり多くて塗る人が極端に少ないのはこのかぶれるのを怖れての結果だと思えます。しかしながら実際は人々が思い込んでいる程怖いものではないらしいという事、全くかぶれない人も多勢いますし、体質や肌の具合でその時の体調など、様々な原因が影響しているようです。自分で彫ったものは自分で塗ってみたい、という切なる願望は永遠にかなえられないのでしょうか。もし漆からかぶれる成分を簡単に取り除ける薬でも出来たら、昨今世の中には驚くような薬品が次々に開発されている事を考えますと、夢のような「かぶれ消滅」薬があっても良さそうなものだと近頃大真面目に考えたりして居ります。

関東学院同窓会（合同同窓会）

今年度、関東学院同窓会（合同同窓会）代議員会は山下町にあるエクセレントコーストに於いて開催されました。

今までの形式とは異なり、前半は代議員会として同窓会総会を行い、代議員の皆様の承認を受け本年度の活動が始まりました。後半には、内藤理事長・永野六浦中・高校長を迎え、懇親会が行われ、会長挨拶・各部会報告等、代議員の皆様と楽しい一時を過ごしました。部会報の中で、今年は大学が創立五十周年、三春台中・高校が創立八十周年を迎えるとの話がありました。合同同窓会では各校にお祝を考慮しております。

また懸案となっておりました学校法人関東学院理事会との懇談会が本年七月二十三日（金）に行われました。

当日は短い時間の中で、理事長から学校の現状と今後の事を伺い、各部長・幹事より各学校への質問とお願い等を致しました。

今後この様な機会を年に一〜二回程持ちたいと考えております。

合同幹事 葛城 容子

シェイクスピア英語劇50周年記念公演戯曲 『ヴェニスの商人』

および記念講演会講師、松岡和子氏に決まる



1948年(昭和23年)に関東学院女子専門学校(女子短期大学の前身)が学校行事として始めた公演が関東学院シェイクスピア英語劇の始まりです。この上演も今年で50周年記念公演を迎えます。その記念に相応しい戯曲として『ヴェニスの商人』(以下『ヴェニス』と略称)を取り上げました。なぜなら、第1回公演がこの戯曲でしたし、1986年の柳生直行先生追悼公演もこの芝居であり、私たちにとって思い出深い作品であるからです。

『ヴェニス』はロマン喜劇ですので、ロミオとジュリエットのバルコニー場面の延長ともいえるシーンもあります。またその物語は、現実的なヴェニスの町と空想的な美しいベルモントを舞台にあの有名な「人肉裁判」と「箱選び」の二つの筋と「指輪」をめぐるエピソードが巧みにからみあって展開していく、楽しい中にも緊張感のあるものです。記念講演会の講師である松岡和子先生は、シェイクスピア劇の翻訳家・演劇評論家で現在最も注目されている方です。世界的に有名な蜷川幸雄氏演出のシェイクスピア劇でも最近では松岡先生の訳が使用されています。

半世紀に一度のチャンスです。皆様ぜひご観劇ください。観客として舞台を学生たちと一緒に創りあげてみませんか。きっと一生の思い出となるに違いありません。当日、劇場でお会いできるのを心待ちにしております。

(演出 瀬沼達也)

記

【記念公演および講演会】

日時 1999年11月26日(金) 午後6時00分(プレビュー) 開演

11月27日(土) 午後1時00分(オープリハーサル)

午後6時00分(初日公演) 開演

11月28日(日) 午後2時記念講演会

講師 松岡和子先生「シェイクスピアとわたし(仮題)」

午後3時30分(楽日公演) 開演

劇場 横浜市教育会館ホール(神奈川県立青少年センター斜め前)

京浜急行「日の出町駅」/JR・東急「桜木町駅」下車徒歩約10分

なお、公演チケット代は500円です。当日券もあります。ただし講演会は無料です。

【記念祝賀会】関東学院シェイクスピア英語劇研究会同窓会主催

日時 1999年11月28日(日) 午後7時~午後9時

会場 ホテル横浜開洋亭(横浜市教育会館隣) TEL 045 (243) 1122

会費 7,000円(ペアで参加の場合は、二人で12,000円、お子様無料)

対象 同窓生(1年以上レギュラーメンバーで参加された人) およびその家族

申し込み方法: 官製ハガキにご氏名・住所・電話番号・卒業年・学科名を明記の上、

下記の住所宛にご送付ください。〔締切期日: 11月10日(水)〕

〒236-8502 横浜市金沢区釜利谷南3-22-1

関東学院大学文学部 庶務課宛

☆祝賀会出席者全員に50周年記念オリジナルTシャツをプレゼントします。

☆劇場および祝賀会場で50周年記念文集も購入できます。

【お問い合わせ先】関東学院大学 文学部 庶務課 TEL 045 (786) 7179

実体験型取材

八景島シーパラダイス篇

浦上 恵

そこは私達にとって、「勉強に励む場」という固定観念からか、二年間の学生生活の中で、じっくりと「金沢八景」という土地を見て歩く事はほとんどなかった。歩いていたのは、駅から学校までのあの海沿いの道だけだったのかもしれない。

あれだけ行楽地として定着している「八景島」でさえ、あまりに知らなすぎていた。今回「八景島」をゆっくりと、じっくりと、見て回る事が出来るというチャンスに恵まれ、贅沢な一日を過ごす事が出来た。

その日は天気も良く、しかし厳しい日差しはなく、穏やかな初夏の休日であった。まずは、島全体を把握しよう

と、ゆっくりと歩いてみる事にした。島は想像よりも広く、のんびり過ごすには最適の場所であった。「テーマパーク」（八景島の場合、テーマアイルランド？）というよりは、限りなく「自然公園」といった感じで、あくまでも「休日を過ごす空間」がこの八景島なのだと思っ



た。

島の数箇所には「ごみ袋」が百円で自動販売機にて販売されており、見ためも「これのごみ袋？」と一見思わ

せるほど、そう見えないデザインであった。果たしてそれにゴミを入れてしかるべき処置をする人が何人いるかは分からないが、私はその袋を手にした時、一匹の魚の命を救ったような気分になっ

た。そして、この袋を売っている自動販売機が常に売り切れになることを願った。

島を半周したところで、この八景島の看板とも言える「サーフコースター」に乗る事になった。前から一度は乗ってみたいと思っていたが、軽い高所恐怖症の私にとって、それは少し勇気の要る事だった。しかし。清々しい天気と、潮風と、皆さんに背中を押され「乗ります！乗りたいです！」といい、言ってしまったのであった。乗り場までの階段を上がっていくにつれ「私ほんでもない事を軽はずみに受けてしまったのではないだろうか。」「という後悔に襲われた。しかし「後悔先にたたず」である。女は度胸。やるしかないのである。』

乗ってからのことは、正直あまり覚えていない。今まで、絶叫マシーンは大好きだった筈が、「キャー！」すらでない。本当に怖い時は人間はこうなってしまうのだということが良く分かった。とにかくこわい。声も出ない。

そしてただ、ただ、涙が流れ落ちるばかりであった。

一緒になった小学生達は、両手ばなしをしてみたり、下で見ている友達に手を振ってみたり…。昔は私にも出来ていた筈の事がもう出来やしない…。それどころか、「あそこで手を振ってね。」といわれた事すら頭からすっ飛んでしまい、最後はもう放心状態であった…。情けない事に腰まで抜けて立て



底ほっとした。ところが…。恐怖におののく顔は、しっかりとカメラに収められていた…。子供たちはちゃんとカメラの位置を把握しており、きちんとポーズまでとったりしている。それに比べて私は一体…。いつ写されたのかさえ分からない状態なのである。社

会人である大人として情けない気がした。

しかし「ブルーフォール」に乗るよりは百倍マシだと思った。あのアトラクションの全貌を目の当たりにした時「サーフコースターに乗れて良かった。」とさえ思った。あれだけは一生乗れないだろうと思った。「乗る時は死ぬ時」そのくらいに断固たる決意が必要な乗り物である。だが、乗っているのはほとんどが子供。やはりそのくらいの年齢の時は、そういうアトラクション仕様の身体なのかもしれない。そうづく思った。

いろいろ見て回ったが、「また来た時に私を思わせた場所があった。それは、島のほぼ中央に位置する「丘の広場」であった。

潮風が心地よく、眺めはもちろん、居心地もほんとに素晴らしいところだった。何の変哲もない花のたくさんある公園といった具合なのだが、なぜか落ち着く。海に向こうの学校を眺めながら、「あの時はあんなことがあった。」

とか、「あそこには、○○があってもしろいんだっけ。」など、いろいろな事をじっくり考えたり思い出ししたりしていた。

二年間の学生生活で八景の事をたいして把握できていないと思っていたが、そんなことはまったくの勘違いで、この八景にはたくさんの思い出深い場所があるのだ。確実にあの場所で時を過ごした事を実感した。

今回の八景島散策でいろいろな発見があった。そして、自分自身の学生生活の記憶を再び蘇らせる旅にもなった。まさに心の洗濯日和であった。八景という土地は、きちんと私の中で心の故郷になってくれていたのである。何よりもそれがうれしい発見だった。



シーパラダイスのマスコット
シーパラ シー太

八景島マップ

・八景島駅を降りて金沢八景大橋から短大が海越しに見える
 ・シーパラダイスタワーに乗って八景島の全体を確認してから遊びましょう



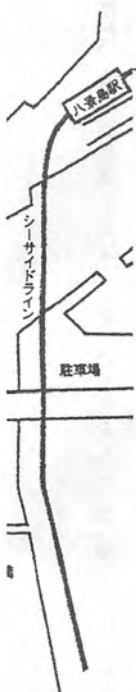
レトロバスで八景島を一周



アクアミュージアムの入口で
 シーパラマスコットの
 シー太君と
 いっしょに



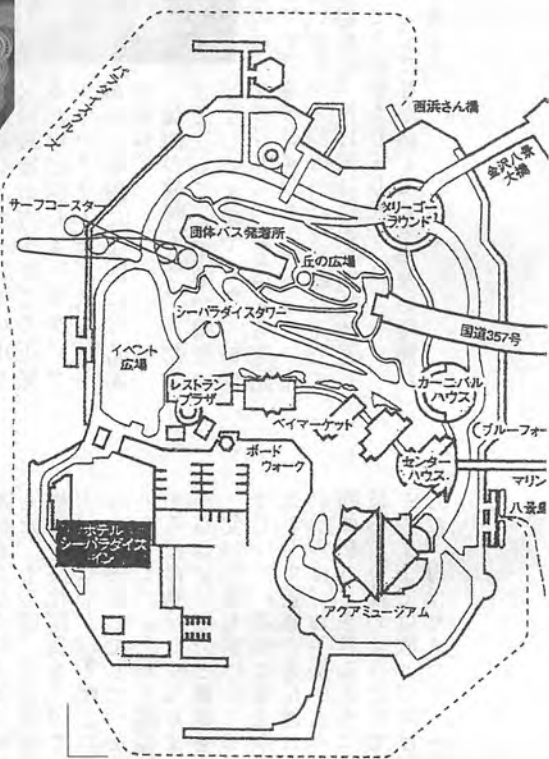
どこからでも見えるブルーフォール
 (シーパラダイスタワーより)



海辺のコースター
 ちょっぴり怖いかも……!!



ゆったりとお食事なら
 シーパラダイスイーンへ
 海を見ながら…
 ヨットを見ながら



丘の広場で祈りを込めて……
 どんな願いかな



「父を語る」

一九九八年十一月一日講演

講演者 本田桂子



NHKが今春四月二十九日に放送し、その後芸術祭参加作品として、十月二十五日に再々放送したのをご覧になった方がいらっしゃると思いますが、その中で父は最後の方をすごく正気みたくに話しています。アルツハイマーというのは時々ああいう風に正気になるんですね。

最初の放映の後は「見た」「見た」という電話が鳴りっぱなしで大変でした。私はブラジルにいる友達から電話がかかってきたことです。ブラジルのサンパウロといえね。ですからその時初めて、NHKは世界に同時放送しているんだということが分かりました。

今日は、話の順序として私を感じているポケの種類からお話させていただきます。

第一がアルツハイマー。第二が脳溢血とか脳血栓という脳血管障害からくるポケ。第三は老化によるポケで、この三つがあると思っています。しかし、ポケ方というのは百人百様で、一人ひとり全部がちがうんです。私の周りにはこの三通りの見本がありましたので皆さんの質問にも多分答えられると思っています。

ここで私の父、丹羽文雄のポケについてちょっとお話します。

父がおかしいなあって気づいたのは、今から十三年前八十一歳の時でした。主人がゴルフやアメリカの話をした時、いつもと違って「うん うん」としか言わなかったり、あくる年早稲田大学の卒業式で三分間スピーチの予定が十八分かかったりしたからです。そのうち、夜中に起きてテレビをつけたり、家のお手伝いさんに母の顔が分からなくなつて「あれは誰だ」というようになりました。その頃、父は芥川賞の審査委員をしたり、日本芸術院の文化部長をやっていたので、丹羽文雄がおかしいんじゃないか、と噂されるのがとても気になり、ハラハラのしどろしどろでした。そんな時に、パーキンソン病でリハビリしていた母も脳溢血で倒れてしまいました。母はからだは動けなくなりましたが口は聞けますから、それから父に随分と嫌味を言い続けました。

父は小説も書けなくなり、母から逃れようと思ったのでしょ、夜中に家を飛び出し、よそ様の呼び鈴を押したりして警察の方に連れ戻されたこともありました。それからはお手伝いさんを昼夜二人ずつにして二十四時間体制で父を見るようにしました。しかし、ある時父が母の首を絞めようとしているのをお手伝いさんが見つけ、このままでは放っておけないので、武蔵野市に相談しました。母はたまたま、一つだけベットの空いている施設

に入れてもらい、亡くなるまでそこでお世話になりました。

母と離してから父は本当に穏やかにりました。私は父に感謝の教祖様とあだ名をつけましたが、人には相性であるんですね。すごく大事だとおもうんです。

そこで、私が申し上げたいのは、ボケ老人に対しては幼児語を使ったりして、口先だけの親切心を見せないことです。本当の優しさかどうか、それは不思議なほどよく見抜かれます。ですからボケ老人に対してはこちらが役者になって、素直に應對すれば本当に穏やかになり、嫌だ嫌だと思っていたのが、逆に楽しくなります。

それから親がおかしいなと思った時は、精神内科にお連れになって下さい。ただの内科では何のプラスにもなりません。

私が講演で必ずお話す言葉に、英語の care for care taker があります。これは介護人のための care 介護です。介護する人が心や体に余裕を持たなかったら、よい介護は出来ません。一カ月に一回でもいい、展覧会を見に行ったり、おしゃれをするなど自分の時間を持たないと潰れてしまいます。そのためには介護をする周りの人も援助してあげなければ行けません。

私の友達で、長男のところに嫁いだ人がいましたが、お姑さんの大変な世話をしているのに、「こういうときには、こういう介護をして下さい。」「もうすこし優しくして下さい。」「という手紙を妹さんからもらって随分悩んでいました。お金も出さず、手も出さない人ほど、口はだすんですね。そうならないように皆さんも周りから助けてあげて下さい。

それから、同じ悩みを持っている人同志が互いに話し合うことはとても大切です。苦しいのは自分だけではな

いことがわかり、気が楽になります。

ここでちょっと恥を申し上げますが、私はアルコール依存症になったことがあるんです。介護に疲れお酒に逃げたんですね。病院へ入って初めて分かったんですが、依存症というのはアルコールも薬物も、パチンコも買い物依存症も、そして若い子の拒食症も原因はみな一緒なんです。そして何か根本に治すものがなければ治らない。それが alcohol care-taker なんです。ですから実際にお世話をしていない人は、余計なことを言わないで「ありがとう」とそれだけ言って下さい。

最後に「老後の生き方」を考えてみましょう。五十年以上も前に、「厭がらせの年齢」という小説の中で父は「自分の老後はどういう風にすべきかを考えておくべきだ。」と書いていました。でも実際は私達が父を見てきました。ボケてからでは遅いんです。今生きているうちに考えなければいけないのですが、いずれどうなるか分からないとしたら、エンジェルになります。その優しいエンジェルになるために、私は三つの「み」をなくそうと考えています。ねたみ・そねみ・ひがみ。それを無くすようにすれば、優しいおばあちゃんになれるんではないかと思っています。

私が父のことを本に書いたことで、評論家の方がいろいろ批判して下さいました。その中ですぐくうれしかったのは「丹羽文雄が娘の手を借りて書いた。」という風に書いて下さった方がいたことです。

正気の父がこれを読んでも、きっと「桂子、よく書いたな。」と言ってくれるだろうと思います。それが私の慰めであり、一番お話ししたかったことです。それが私の本当に今日はありがとうございました。

要約 雨宮慶子(家9回卒)

ハンソン山から

現役の先生方にご自分の研究についてを中心にお書き頂きました。ご自分の分野を通して投げかけてくださった言葉は、先生方の生の声、実像を見せて頂いている思いがします。タイトルは、短大の地に因みハンソン山の名をお借りしました。



英文科 江口 真理子

より効果的なコミュニケーションを実現するために、「言語表現と文化の関係」を研究しています。私達はほとんどの場合、無意識にコミュニケーションに関わっていますが、私はそれを意識のレベルに押し上げて、天才的でない人でも効果的にコミュニケーションを行うことができます。

そのために、言語表現の構造とその背後にある文化の関係、特に英語表現とアメリカ文化の関係に注目しています。どんな目的を果たすためにアメリカではこのように言うのだろうかという視点から、英語表現とアメリカの

社会や歴史・人々の価値観にアプローチします。

言語表現が考え方を表出する例として、現在進行形の使い方があります。最近の自動車広告では「We're doing our part.」「We're planting thousands of trees.」のように現在進行形を用いたものがたくさんあります。どうしてでしょうか？ 私達はどんなときに現在進行形を使うのでしょうか？「進行中」を表すだけではありません。現在進行形によって、行動を強調する事ができます。自動車広告が現在進行形を用いるのは環境破壊の一端を担いでいることに対する後ろめたさがあるからと思われる。車は環境破壊の最たるものです。道路を作って山々を削り取り、有害物質を排出して森林を破壊します。私達の生活を便利にする反面、公害・渋滞・交通事故を引き起こす本当は恐ろしい乗り物です。そういう認識が急速に私たちの間に広がってきました。これが背景となつて、自動車会社は自己防衛を迫られているのです。だから、現在進行形を使いたくなってしまうのです。

自己防衛を目的とする言語表現では、現在進行形と一緒に強調表現も使われます。アンダーライン・大文字・大きなフォント等の書式 every, all, always, remark, etc.等の強調するための副詞がその例です。また、自己防衛するときは自分の行動を過大評価したがるものです。完了形を使えば「ずっと昔から私はこんなにたくさん努力をしてきた」という気持ちを表現することも可能です。

人から非難されたとき、知らず知らずのうちに現在進行形や強調表現を使っていることはありませんか？

私の近況

国文科 富岡 幸一郎



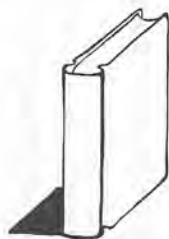
短大の専任教員になって早いもので五年になります。以前に非常勤講師で国文科の講義をしていたときにくらべると、選任になってクラスを担当したり、学生主宰として学友会、体連、文連の学生諸君と一緒に体育祭（SF）や、短大祭（GF）を企画、実行したりとずいぶん忙しい日々です。しかし、それだけに学生一人一人の顔がよく見えてきました。顔が見えてくること、それが大事なことであり、私も気づきました。

時々、卒業アルバムを手にして、クラスの学生たちの懐かしい顔を眺めながら、いろいろなことを思い出します。卒業生と再会して食事をしたり、短大時代のようにカラオケをやったりすることがありますが、彼女たちは異口同音に、「短大の時をとっても楽しかった」と言い

ます。それは過ぎてみればみな素敵な思い出になる、ということだけではなく、やはり短大の二年間という時間がいつまでも彼女たちの中に生き続けていることなのだと思います。だからこそ、教員の一人として今ここにいる、目の前にいる学生たちと充実した時を過ごしたいといつも思っています。

自分の研究のことを少し書きます。

この五月に、十年の歳月をかけた研究の成果を世に問うことができました。比較文学の講義では、ドストエフスキーなどキリスト教の信仰に生きた作家を取り上げてきました。その関連もあって、以前よりプロテスタントの神学者カール・バルトを読んできました。二十世紀のキリスト教界に大きな影響を与えた人です。そのバルトについて、一冊の本を書いたのです。講談社から『使徒的人間—カール・バルト』というタイトルで刊行しました。宣伝めいて恐縮ですが、この本には、自分の力の全てをこめたのです。しかし、それ以上に多くの素晴らしい人たちとの出会いが、この本を書く力となりました。少しでも多くの方に読んでいただければ幸いです。



千葉先生の墓参り

家政科 藤本 憲太郎



先日、千葉先生の墓参りに行ってきた。千葉先生といってももう知らない人が多いのかしらん。それよりも、これを書いている私自身のこと

を知っている人がいるかどうか心配です。

ともかく、私は短大に就職してからしばらくの間、千葉先生には、本当に何から何までお世話になった。しばらくというものは、何年もしないうちに病を得られて入院し、やがて亡くなられたからである。先生がまだお元気だった頃、暇があれば国文科の演習室に出かけていって話をし、夜はクラブ活動の学生たちとそれぞれのスポーツに付き合った後に今度は教職員だけでテニスに興じ、さらにお酒を飲みに行くというようなことをしていた。

また、新宿辺りでさらに飲んで、そのまま赤堤のご自宅に泊めてもらったということもあった。先生は、このよ

うな時でも必ず勉強されていたことを後で知った。これが命を縮めさせたのかもしれない。それでも楽しかったなあ。

さて、墓参りのこと。墓に刻まれた享年を見て、居合わせた四人がほとんど同時に「若かったんだなあ」ともらす。それから、死んだ子(?)の歳を数え、もし生きていたら…という話になる。ここしばらくは、まるで決められた儀式のようである。それぞれが年をとり、中には信じがたいことに今年で定年を迎える人もいるのだ。そして、私はいつの間にか先生の年を超えたことに気がつかされ、楽しく遊んでばかりいた日々からずいぶんと時間が経過したことに驚き、自分の来し方をしみじみと思い返すことになる。

日々の忙しさや雑事に追われながら、つい毎日を惰性で暮らしてしまうというのは、ふつうのことなのか、そうでないのか。あるいは目前の楽しいことだけに埋没する。ま、幸か不幸か、私の回りには楽しいことはないなあ。それでもぼんやりと過ごすうちに残りの時間が少ないのに気づくわけで、また、何もなすべきことをしないまま、格別に成長しているわけでもない自分を見なければならぬのはつらいことである。遅きに失した感はないけれども、これからは、それがささやかなことであっても存在理由を確認しようように暮らさなければと思う。たとえば、毎日必ず和歌の本をひもといた千葉先生のように

うに実行するのはなかなかむずかしいけれど、その思いはだんだん強くなるばかりです。

若いときには思いもしなかったようなことが、現実に取りこり、自分をせき立てる。これが、他人がどう思うかということならばまだあきらめもするけれど、自分に対する思いだけに始末が悪いね。毎日をきちんと過ごさなideきた報いといえればそれまでだが、年をとるということはなかなか難しいですね。

そうした思いを抱きながら暮らしていると、今の女子学生たちの学校に何をしに来ているのかわからないでたちや、態度にはあきれると同時に、いささか心配してしまう。爪にきれいな化粧を施す前に、いやせめてそれと同じくらいの情熱で図面をかけたらどうかといいたくなる。ま、彼女たちには、年をとった後のことはないのに等しいようだから、実際には深くため息をついて、立ち向かうしかない。つきあいづらいこと夥しい。本当年をとってしまったんだなあ、やれやれ。

それでも、昔テニスをして遊んでいた仲間から久し振りに連絡があり、会ってみるとこれが何と住宅の設計の依頼で、いつにもましてうれしい気持ちになりました。

母校ニュース

板垣 綬先生ご逝去



経営情報科で経営管理論、経営組織論等をご担当されていた、板垣綬（たもつ）先生が去る六月二十一日肺ガンのためご逝去されました。六十八才。

先生は平成二年から経営情報科の選任教授として教鞭をとられ、平成九年三月に定年退職。その後も特約教授としてご活躍されていました。また本学英文科第二部の卒業生でもあり、いつも学生には温かい目で接しておられました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

社会人一年生

大塚 佳美

(家47)

卒業して一年。悪く言ってしまうれば、単なるフリーターの私ですが、一つだけ自信を持って言えることがあります。それは今、自分のやりたいことを正直にやっているということです。

私は、短大に入って、テニスと出会い、硬式テニス部に入り、テニス中心の生活を送っていました。そんな風になりに就職活動が本格化してきて、私はやりたいことがはっきりと見えてきませんでした。一応は何社か受けてみましたが、受かるはずがありません。私は、就職活動に集中できずに、テニスのことばかり考えていたのですから。卒業して一年経った今、私はちゃんと自分の一番やりたいことを見つけたし、毎日頑張っています。テニスを始めて三年。まだまだ経験の浅い私を、テニスコーチとして雇ってくれた今の

仕事場に、すごく感謝しています。そして、仕事を通して、いろいろな年代の生徒さんと接し、たくさんのことを学ばせてもらっています。私も、そんな生徒さんに、テニスを利用して、できる限りのお返しをしていきたいです。とにかく、自分の個性を生かせる道を皆さんも見つけ出してください。



中村 浩子
(幼教24)

私は幼稚園に勤めて、二年目を迎えました。一年目はとにかく緊張と不安の日々を過ごしていました。幼稚園では子供だけではなく、お母さん方と接する事も多く、コミュニケーションのとおり方がわからず戸惑う事もたくさんありました。ですが、園長先生をはじめ、先輩の先生方にいろいろな事を教わり、少しずつ幼稚園に慣れていきましました。失敗もたくさんあります。一年目って何でこんなに大変なのだろう？

といつも感じていました。毎日家に帰ると疲れて眠くなってしまい、何も出来ない時もありました。やめたいと思っただ事も何度ありました。でも二年目を迎え、少しずつ周囲が見えるようになり、余裕もほんの少しだけ持てるようになりました。

毎日、たくさんの子供たちに囲まれ幼稚園の先生になって良かったと思っています。社会人二年目になり、プレッシャーもありますが、自分自身がステツブアップできるように更に頑張りたいと思っています。

梶原 里恵子
(英47)

私は短大を卒業後、関東学院大学・文学部英米文学科の三年次へ編入しました。編入したばかりの頃は、なかなか新しい環境に慣れることができなく、不安を少し抱えていました。しかし、一年経った今ではそのような事は少しもなく、多くの友人に囲まれ、楽しい大学生活を過ごしています。編入当時は、大学にはあまり友人がおらず、不慣れな環境の中、心細く、おろおろと

していました。しかし今では、同じ学科での友人はもちろん、他学部・他学科の友人もできました。彼らから学ぶことは多く、私にはかけがえのない存在です。

大学では、「アメリカ英語の語法と文法」というゼミナールに所属しています。三・四年生合わせて約四十五人と大きなゼミです。映画のスクリーンを使用し、主にスラングについて研究しています。ゼミに入り、スラングについての知識を大変多く吸収することができました。英語の持つ面白さをまさに実感しています。

卒業まであと半年です。後悔しないようにめいっぱい残り少ない学生生活を楽しまたいと思います。

留学生より



金 紋秀
(幼教25)

二年間が本当にあっという間に過ぎ

てしまった気がします。入学式がまるで昨日のように感じられますが、もう卒業式を目の前においています。

私は今思い出して見ても、関東学院女子短期大学に通っていた二年間は本当に幸せだったと思っています。自分の心のなかでずっと願っていた幼児教育の勉強をやっと日本で学ぶことができてうれしかったです。そして何よりもよかったと思っているのは素晴らしい先生方との出会いでした。学問的にもいろいろなることを教えていただいたし、それ以外のところから大事なことをたくさん得られたので先生方から感謝しています。二年間、先生から教えていただいたものは、これからの自分の人生にとって良い道しるべになると思います。また、幼児教育を勉強した私は二年間の間、幼稚園、保育園、施設園などで五回の実習をさせていただきました。実習というのは、本当に精神的に緊張するし、肉体的にもつかれてしまうが、最後にはいつもやつてよかったという充実感が心にあふれ

ていました。そして多くの子供達と出会って悲しい時もあつたし、本当にうれしかった、楽しかった時もありました。実習を通していろいろな思い出が作られたのでよかったです。

このように私はこちらの学校に入ってから先生方や友達、また子供達等との出会いを通じていろいろなことを感じたり、経験したりしたのでこの二年間は自分にとって大切な時間だったと思います。卒業式をもうわずかに残している今、無事に終えたという安心感とともに学校を去るさみしい気持ちがある中で絡み合っています。学校に入ってから一度も後悔したことがなかったのですが、それは学校のいろいろなまわりの方の支えがあったからだと思います。春になったら私は自分の国へ帰国する予定です、いつまでも心の中には、関東学院女子短期大学で生活していた二年間の思い出が生きていると思います。



香葉室

この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き、昨年の講演会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛て、次号への原稿などお送りいただければ幸いです。

香葉会誌（No.27号）に載っていた中田先生の文章を読んで、とてもなつかしく当時を思い出しました。私が受験する時、面接でお話ししたのが中田先生だったのを覚えています。あれから早くも十一年。二十九才になった今は十ヶ月の男の子と一緒に自営業の仕事をしながら頑張っています。中田先生は覚えていらっしゃるかしら……：武山真理子さんにも九ヶ月になる女の子がいるんですよ。松浦衣恵さんはドイツで幼稚園の先生をしています。

（幼16 梶 紀子）

昨年十一月に結婚しました。横須賀の実家から金沢区に移り住み2DKのささやかな社宅で暮らしています。四十五㎡の狭さながら住居学で学んだ部屋のコーディネートを余暇に費やすことが多いです。新しく家具を購入することは困難ですので、ミシンを使ったり、観葉植物に演出してもらったりと季節にあわせて変化をつけて楽しんでいます。お客様をお招きする時「この

お部屋、落ちつきますね。」と言われることがやっぱり一番うれしいのです。

（家41 岩井 美和子）

「香葉」27号を読んで「田中順子寮母さん長い間ご苦労様でした。私も元寮生の一人でしたので寮母さんにはとても感謝しています。寮母さんはそれぞれ地方から出てきた私たちの不安や悩みを、あの満面の笑顔で迎えて下さり毎日楽しい寮生活を無事に過ごすことが出来ました。もう一人の「横浜の母」として、あなたかく見守って下さいました。退職されてもお忙しい毎日でもいらっしゃるかと存じますがくれぐれも健康にご留意下さいませようお祈り申しあげます。今、私は二児の母として毎日子育てに奮闘しております。なかなかそちらに伺うことが出来なくて残念ですが、いつか子供の手をとり遊びに行ける日を楽しみにしています。

（国25 岩下 直美）

「香葉」をいつも楽しみにしております

す。私もルツ寮で退職された田中寮母さんにお世話になった一人です。寮母さんの忘れ得ぬできごとのコメントの中に、集団で具合が悪くなった時、学校全体で寮生を守るすごい雰囲気だった事、とありましたが、私もその時の一人だったのです。みんなで一緒に入院し、忘れられない体験です。その時は気づかなかったけれど、学校に守られていた幸せな寮生活だったんだと改めて感じました。

(英35 大路 佳子)

「香葉」27号で寮母の田中順子さんが定年で寮を去られましたことを知りました。私も田中寮母さんにお世話になった一人です。寮母さんには大変感謝しています。今後の増々の精進をお祈り致します。いつも「賛助金寄付者」を見ては元寮生の名前を探しています。

(英18 竹内 恵美子)

二年生時のアドバイザーとして当時いつも温かい助言をいただき、今も年

賀状のお返事には優しいお言葉をお書き下さる岡松和夫先生の文学賞受賞のページを、大変嬉しく懐かしい気持ちで拝見いたしました。私の方は、この九月に長年住み慣れた上大岡から逗子へと転居しまして、まだまだ慣れない事がたくさんながら、緑豊かなグッドロケーションにはほんと安らぎを覚え、さあまた次のイラストレーションの納期に向けて頑張ろう！と仕事への意欲も新たにしておりますこの頃です。

(国16 斉藤 雅美)

昨年は卒業以来初めて短大を訪れ、関東学院中・高生のハンドベルクワイアを親子で楽しませていただきました。本当にすばらしい演奏でした。長女も十五才になり、将来は母校の短大に入学してほしいと今から考えております。「香葉」27号を読ませていただいていた

ましたら、寮母さんにスウィージー先生からのお手紙があり、先生の御写真を拝見してお元氣のご様子でともうれしく思いました。スウィージー先生の英

会話の授業は今でも忘れられません。
(英26 鈴木 佐智子)

いつも「香葉」を楽しみに拝見しております。昨年は卒業以来の母校でのハンドベルクワイアに参加して、素晴らしい音色にひと時現実の忙しさを忘れて感動しました。時間がなくぎりぎりに着きましたが、本当に無理してでも行った甲斐がありました。今回も出席したかったです都合がつかず行かれせん。五十一才になり、これからは自分の時間を有効に使い、前向きに生活していきたいと思っています。

(英16 大野 澄代)

「香葉」の雑誌を送っていただいても懐かしく拝見致しました。中でも十二ページに寮生の写真、氏名があり、私も当時この先輩の方々と一緒でした。

私が長島(堀井)さん、私の親友の吉沢(関原)さんが鈴木(関)さんと部屋が一緒でした。寮では田中先生にお世話になりました。今では一人娘が静

岡英和女学院高校一年になり、将来は、関東学院は素晴らしい学校ですのでどうか、と勧めている今日この頃です。機会があればまた皆に会いたいです。

(英23 山崎 広子)

六月十八日に二人目を出産しました。現在育児休業中です。上が男の子(四才)で今度も男の子という気がしていました。が、生まれて来た子は女の子で喜びが増えました。家のことをあまり手伝わってくれない夫にとってもイライラしていた時期がありました。が「香葉」の中に「人になれ、奉仕せよ」の言葉を見つければ、そういう気持ちを忘れていたなと思ひ直しました。「ハンソン山から」の中田先生のお言葉を嬉しく読ませて頂きました。今後、どんな先生方のお言葉が読めるか楽しみです。よろしく願ひ致します。

(幼13 松本 祐美子)

公務員か調理人を志し、フリーター四年目です。「ハンソン山から」と

ても面白いので是非続けて下さい。吉田博学長先生の文章を、毎回楽しみに読ませて頂いています。それにしてもキノコの研究に熱かったあの吉田先生が「学長」に……未だ信じられない気がします。相変わらずのお人柄に安心すると共に、時の流れというものを嫌でも感じさせられます。吉田先生、これからお体に気をつけてキノコ道の更なる高みを目指して頑張ってください。

(家44 飯嶋 千里)

子供が一才四ヶ月になるので、毎日片付けが大変です。あわただしく過ごしている中、香葉会の会報の中に矢嶋先生のお写真を見つければ、すっかりカンロクの出たお姿にびっくり。時間の経過をひしひしと感じ、また急に短大時代の授業のことなど思い出してとても懐かしい気持ちになりました。

(英33 桐ヶ谷 千枝)

新聞で、担任だった岩佐先生の名前が、サントリー文芸賞を受賞している

のを知り、懐かしくあの頃を思い出しました。

(国17 中村 珠美)

長年、旋盤機械加工職としてサラリーマン生活を送って来ましたが、この度六十五才にて定年退職を迎え、主として年金生活に入りましたが健康維持の為、時折アルバイトを致して居ります。現在健康で元気に過ごし、時間がある時はハイキングや体操等を楽しんでいます。一九五一年入学時には十八才でした。時の流れの早さを感じます。今後とも香葉会の発展をお祈り申し上げます。

(英11 山本 長生)

幼稚園に通う娘と二才の息子と日々慌ただしく過ごしています。社宅に住んでいるのですが、関東学院女子短大出身のママが私の他に二人もいて、たまに母校の話になります。「香葉」27号には、お世話になった矢嶋先生と中田先生のお写真と文が載っていてとて

も懐かしく読ませていただきました。

(幼11 寺本 準子)

時々実家に帰る折に懐かしい”KG C”の校舎は目にするのですが、卒業以来一度も母校の門をくぐっておりません。現在、五才と一才の子育て真最中で、自分のことだけ考えていれば良かったあの頃がともうらやましく? 思えます。また、教わった先生方が次々に定年を迎えられている様子を、少しさびしく、月日のたつのがとても速く感じられます。学生時代の時間はゆっくりと流れていた様な気がするのに、就職し結婚さらに母になってから加速度的に時の流れが速くなった様な気がします。

(英31 原 真紀子)

平成十年四月二十四日、無事女兒を出産しました。今から丁度十年前の四月は短大へ入学した頃。当時の私は、子供を産むことなんて考えてもいませんでした。短大時代は、勉強も大変で

したが、毎日が新鮮でたくさんの方にも恵まれ、とても楽しく、あつという間に二年の月日は流れていきました。もう一度、あの頃に戻りたい……ふとそんなことを考えてしまう今日この頃。まだまだ先の話ですが、私の子供にもこの短大で過ごしたような、充実した日々を送ってほしいと願っています。

(経2 秋山 千恵子)

編集後記

・ドキドキそしてワクワク初めて編集のお手伝いを致しました。その「香葉」が今年も又皆様のお手元に届きます。待ちわびて喜んで開いて読んでいただきますように……

編集委員一同の願いです。(編集長)

・「香葉」の編集は七月、八月と暑い夏の真っ盛り汗だくになりながら、おバサンかけだし編集者は皆様によりよい会誌をお届けしたいと頑張っています。

・卒業して十一年、母校の同窓会誌に携わることができて幸せです。

・「香葉」の編集のお手伝いを始めて二回目、今までと違って出来上がりが楽しみで、愛着が湧いてきました。これからも皆様に親しんで読んでもらえる様に編集委員の一員として努力したいと思っております。

・新編集長の笑顔に励まされて編集委員一同頑張りました。沢山の方々が御目を通して下されば幸いです。

・『香葉』に携わって何年になるのでしようか。毎回毎回楽しく作業をしています。今年から文字も大きくなり読みやすくなりました。

・新編集委員として三人仲よく参加しました。社会人一年生として、企画・取材と楽しく編集をすることができました。新人に期待あれ。

(香葉第28号編集委員)

吉屋保子・小濱朝子・織田明美
村岡愛子・山口佳子・岡崎敬子
川上智子・坂東奈苗・浦上 恵

クラス会報告

さつき会

えぼし岩と江の島を眺める湘南のレストランに元気な笑顔が十八名集い、



今年も恒例のさつき会が五月十日に開かれました。

遠方の島根

九州からも、

又久々の方も

見え、なつか

しく賑々しく

昨日迄会って

いたかの如く

話はずみ、

元広(タルちゃん)さんの聖書にまつわる楽しいプレゼントの抽選会と貴重なお年寄りケアーのお話しに胸が熱く、ますます高齢化を迎えて現在、健康に感謝して一日一日を大切に生きなければと身が引締まる思いでした。

お料理も美味しく近況報告の交換に

耳を傾け、石井さん(旧佐竹)の「鎌倉の水」に関するテレビ出演話にしぼし花が咲きました。老いた親を世話する人、御主人を見送った方、病いと戦っている人、海外旅行を楽しむ人それぞれですが又来年も元気で一人でも多くの方が参加出来る事を誓ってお別れを惜しみました。

予定の江の島散策は強風の為取り止めました。

中西 愛子(英?)

オリーブの会



今回は京急三浦

海岸駅すぐ近くの

「マホロバマインズ」

に於て十月二十四

日、二十五日と一

泊のクラス会。出

席者十六名。土曜

日の午後二時頃に

集合し眺めの良い、

海浜沿いのホテル、豪華なパーティールームの会場。立食式で、食べて、吞

んで、おしゃべりに花を咲かせ、カラオケ歌い放題。ダンスも出ました。それから露天風呂にも入りました。

日帰りの方も二名いらっしゃいましたが、夜が更けるのも忘れて賑やかな時を過ごしました。翌朝はバイキング式の朝食を食堂で、山盛り食べました。

食后希望者は温水プールに入り、ジャグジー、香草風呂と楽しみました。家の事は忘れ一晩命の洗濯をして、昼ごろ解散、来年の再会を約してそれぞれ家路につきました。

石原さん他幹事さん、有難うございました。

村岡 愛子(家12)

幼教十五回卒のクラス会

去る四月十七日(土) 幼教十五期B

クラスの同窓会を、短大の教室をお借りして開催しました。当日は、私たちが

クラスアドバイザーとしてお世話になった小室先生、佐々木先生をお招きし、十年ぶりの再会に、楽しいひとときを過ごしました。



皆の近況報告
会では、出産を
間近に控えた方
や既に何人もお
子さんのいる方。
現在も保育や福

祉の現場に携わっ
ている方、新し
い仕事に挑戦し
ている方。中に
は自分で事務所
を経営している
方もいたり……と、
一人一人の話し
に驚いたり喝采

したり、大変盛り上がりました。その
後も話は尽きることなく、終了時間を
延長してもまだ足りない程でした。

十年ぶりの再会となった今回の同窓
会でしたが、皆、学生時代と全然変わ
らず、十年の年月が経ったことがうそ
のように感じてしまいます。けれど、
皆がそれぞれの道で夢や目標をもち、
学生時代よりさらに生き生きと輝いて

いた事を、とてもうれしく、誇らしく
思いました。

最後に皆で記念撮影をし、再会を約
束して閉会となりました。

松本 晶子(幼15)

家政科十一回卒のクラス会

平成十年十月十日十二時より。何し
ろ十三年ぶりの再会ですから覚えやす
い日に。

折しも、横浜ベイスタースのリーグ
優勝祝い便乗セールでごった返してい
る横浜駅西口を通り抜け、ホテル・リッ
チ横浜に十九名が集いました。

卒業以来初めて参加の方、家庭の事
情で中退された方も連絡がとれておい
でになるなど、秋たけなわの日本料理
に箸運びながら、近況報告をし合
いました。

孫自慢にもうすぐ定年を迎える夫の
こと、それを過ぎ只今趣味に没頭の中
の方、習い事からその師匠になってしまっ
た方、お嬢様業をずーっと通しておら
れる方、今流行ではないけれどパツイ

チで張り切り中の方、大病を家族、友
人の助けと励まして克服し、日常生活
を取り戻された方等々、卒業後三十六
年間をそれぞれが神様のお守りの内に、
この場に集い笑顔で歓談出来たこと、
とてもうれしく、懐かしい気持ちで一
杯になりました。



香葉会委員も
交代、引継ぎし、
次回クラス会は
還暦祝いを兼ね
て、湯河原温泉
で一泊しましよ
うね、とまで盛
り上がりました。
またまた懐かし
い学友が一人で
も多く集えます
ように、健康な

心とからだで歳を重ねられますように
祈ります。最後に本当に久し振りのク
ラス会を開けるまでにご準備下さった、
村井・山崎・八木・伊東さんに感謝。

森田吉世江(家11)

英文第二部卒のクラス会

六回目の英文科第二部第一回卒業生「昭和二十八年卒」及び第二回から第六回卒の方々を数人交えて、平成十年度クラス会を九月十九日（土）に横浜中華街の市場通りに存る鯉鱒菜館「リーマンサイカン」の三階で開催致しました。今年も香葉会役員の上市二郎顧問にご出席頂き、総勢十三名でお互い、胸襟を開いて語り合い楽しい一時を過ごす事が出来ました。今回は新しく第三回卒の大賀眞佐子さん及び第一回生で共に学んだ小坂宣雄さんも参加され、小林守信兄を中心に今までと違った雰囲気の中で各人が各々の辿って来た貴重な体験談等をご披露され非常に有意義だったと思つて居ります。更に二次会はホテルホリディ・イン横浜に移り、関東学院在学中の若かりし時の写真集等を回覧しながら長時間楽しく過ごすことが出来ました。振り返って見るに、戦後の混乱期に苦しい生活の中で共に学んだ仲間たちが当クラス会で再会し、お互いの親睦を図り、情報交換出来る

なんて本当に有り難い事です。皆さんがお元気で来年も又お会い出来ますよう祈らずには居られません。

一九九九年度クラス会幹事は青木昭二郎さん、会計幹事は竹内恵美子さんに決定致しましたので、参加ご希望の卒業生がおられましたらご連絡頂ければ幸いです。卒業後四十数年の歳月が流れ我々は老年に成りましたが、当クラス会が毎年開催され、出来るだけ長く継続される事を心から願つて居ります。

中村 武雄（英Ⅱ）

英文第三回卒のクラス会

昭和二十九年（一九五四年）短大英文科卒 第三回生A組のクラス会を、平成十年十一月二十九日（日）東急ホテルで、昼食をいただきながら、久し振りに開催しました。出席者は十名でした。

学生時代の友人は本当に良いもので、六十五才を過ぎたおばあさんが、アツという間に学生に戻り、楽しいひとと



きを過ぎました。

そして今後は、毎年十一月の最後の日曜にお逢いして、旧交を温めよう（Renew old friendship）と言う、盛りあがりになりました。

八日（日）に、幹事・小濱朝子さんで、開催の予定です。

是非第三回A組の皆さんのご参加をお待ちしております。

幹事・池田 真田 望月

椎野 荒井

荒井 敬子（英3）

平成10年度決算				平成11年度予算
収入の部	予 算	決 算	増 減	予 算
会 費	(@18,000×939) 16,902,000	16,602,000	0	(@18,000×956) 17,208,000
賛 助 金	500,000	747,396	247,396	500,000
預 金 利 息	5,000	2,649	△ 2,351	3,000
雑 収 入	5,000	168,642	163,642	5,000
前年度繰越金	2,784,446	2,784,446	0	2,258,540
合 計	20,196,446	20,605,133	408,687	19,974,540

支出の部	予 算	決 算	増 減	予 算
通 信 費	3,000,000	2,648,133	351,867	3,200,000
印刷・製本費	2,000,000	1,824,039	175,961	2,000,000
総会・会合費	2,200,000	2,138,937	61,063	2,200,000
交 通 費	500,000	439,570	60,430	600,000
用 品 費	100,000	18,648	81,352	100,000
委 託 費	500,000	454,388	45,612	500,000
謝 礼 費	50,000	30,000	20,000	50,000
消 耗 品 費	100,000	49,999	50,001	100,000
人 件 費	3,200,000	2,778,720	421,280	3,200,000
合同同窓会分担金	(@300×939) 281,7000	281,700	0	(@300×956) 286,800
新入会員歓迎費	1,500,000	1,389,728	110,272	1,600,000
慶 弔 費	300,000	84,627	215,373	300,000
寄 付 金	200,000	200,000	0	200,000
雑 費	64,746	8,104	56,642	37,470
予 備 費	200,000	0	200,000	100,000
特 別 会 計	2,000,000	2,000,000	0	3,500,000
名簿発行準備金	2,000,000	2,000,000	0	0
奨 学 金 基 金	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000
(小 計)	20,196,446	18,346,593	1,849,583	
次年度繰越金	0	2,258,540	△ 2,258,540	
合 計	20,196,446	20,605,133	△ 408,687	19,974,540

賛助金をご寄付くださった

方へのお礼とお願い

今年も後記の方々から総額「七十四万円」
をお送り頂き、厚くお礼申し上げます。

諸物価の値上げにより、年々「香葉」の発
行がむずかしくなっておりましたが、卒
業生唯一の会誌を存続したいと、編集委員
一同頑張っておりまして、今後共賛助金
のご協力をよろしく願います。

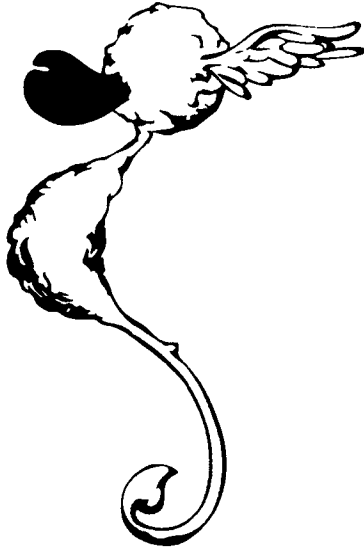
一九九八年度賛助金寄付者（敬称略）

- | | | | | | | | | | |
|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 佐生貴子 | 渡辺才子 | 新井三郎 | 南條きよ子 | 馬越千恵子 | 佐藤静子 | 千田節男 | 矢嶋道文 | 山本吉枝 | 増田安喜子 |
| 坂下良恵 | 飯嶋千里 | 渥美裕子 | 青木美代子 | 佐々木晶美 | 佐藤恭子 | 石崎キク | 池田葉子 | 森田宮子 | 高橋里実子 |
| 野尻良子 | 芳垣恂子 | 笠木茂伸 | 岡田万里子 | 福田しほり | 稲垣愛子 | 中谷純子 | 斉藤道子 | 長崎洋子 | 山口恵美子 |
| 大川幸子 | 勝見修子 | 見目光江 | 竹内恵美子 | 芦部九女夫 | 日下利枝子 | 高橋美佐子 | 高橋美佐子 | 飯吉玲子 | 平澤京子 |
| 武藤民子 | 田中順子 | 高山政子 | 五十嵐節子 | 高橋美佐子 | 吉原千恵子 | 真島惠美 | 菅野富子 | 星友子 | 福崎浩子 |
| 徳江奈美 | タハ 茜 | 上倉幸代 | 仲村恵理子 | 祖父江有加 | 江波戸房子 | 川上妙子 | 村岡愛子 | 松本紀子 | 原典子 |
| 玉木宮子 | 白田修良 | 亀井真澄 | 田中宇多子 | 江波戸房子 | 宮東亜希子 | 小出美智代 | 岩井美和子 | 山口寿美子 | 山内奈緒子 |
| 原田明美 | 西本素子 | 松田良子 | 高斉香代子 | 山口寿美子 | 山内奈緒子 | 長慶寺千穂 | 伊藤みや子 | 伊藤陽子 | 内田康子 |
| 中川あや | 辺見裕子 | 井田玲子 | 日原美登里 | 長慶寺千穂 | 伊藤みや子 | 谷田部敦子 | 小川美津江 | 鈴木みどり | 田丸瑠美子 |
| 越智協子 | 古城房子 | 小宮和江 | 小林三恵子 | 伊藤みや子 | 伊藤陽子 | 伊藤陽子 | 内田康子 | 坪井昇 | 杉由紀子 |
| 森 禎子 | 池田理恵 | 森 静恵 | 飯塚まり子 | 近藤鶴子 | 津呂未絵 | 高橋茂彦 | 松友明美 | 飯島敏子 | 白土紀久子 |
| 城多恵子 | 寺内雅子 | 平井道子 | 河原めぐみ | 近藤鶴子 | 津呂未絵 | 高橋茂彦 | 松友明美 | 飯島敏子 | 白土紀久子 |
| 小谷泰子 | 高橋静子 | 原由美子 | 押小路珠左 | 伊藤陽子 | 中村智子 | 鈴木牧子 | 堤由美 | 三富正枝 | 山本美子 |
| 岡田温子 | 松野文子 | 芝久江 | 佐々木昭子 | 伊藤陽子 | 中村智子 | 鈴木牧子 | 堤由美 | 三富正枝 | 山本美子 |
| 露木球恵 | 原真紀子 | 古郡綾子 | 小泉すみ子 | 伊藤陽子 | 中村智子 | 鈴木牧子 | 堤由美 | 三富正枝 | 山本美子 |
| 福井英子 | 内田駒子 | 松上尊代 | 清田恵美子 | 伊藤陽子 | 中村智子 | 鈴木牧子 | 堤由美 | 三富正枝 | 山本美子 |
| | | | | 菅野弘恵 | 川口祥代 | 丸山勝代 | 木村燐子 | | |

匿名一名

（一九九九年）

三月三十一日迄



先輩諸姉へ求人のお願い

本学卒業予定者の就職活動につきましては平素より暖かなご援助、ご協力をいただき感謝申し上げます。

学生達は将来への希望を胸に企業の扉をたたいておりますが、昨今の社会情勢の中、女子学生への門戸は大変厳しいものになっております。

つきましては、先輩方のご関係で求人のお話がございましたら就職課へぜひお知らせくださいますようお願い申し上げます。

〒236-8503 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 787-7868
関東学院女子短期大学就職課 Fax (045) 781-1491

香葉 第28号

平成11年10月1日 印刷・発行
関東学院女子短期大学・香葉会
代表者 古城 房子
横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236-8503
関東学院女子短期大学内
Tel・Fax (045) 787-7859

